

一般国道106号(宮古盛岡横断道路)箱石達曾部道路に係る新規事業採択時評価

- ・現道の課題を回避し、災害時の広域迂回を解消する信頼性の高い道路ネットワークの確保
- ・三次救急医療施設へのアクセス性向上により、救急搬送などの救急医療活動を支援
- ・内陸部と沿岸部を結ぶ道路ネットワークの強化により、水産業の生産性拡大を支援

1. 事業概要

- ・起 終 点 : 岩手県宮古市箱石～岩手県宮古市川内
- ・延長等 : 9.7km(第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約470億円
- ・計画交通量: 約6,400台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約3,100台/日	約700台/日	約2,600台/日



図1 広域図



図2 事業位置図

2. 課題

①災害に対し脆弱な道路ネットワーク

- ・国道106号は、宮古市と盛岡市を最短で結ぶ幹線道路であるが、急峻な地形であり防災点検要対策箇所や道路寸断の恐れがある危険箇所(河川と並行する区間)が多数存在し、災害が発生するリスクが高い。(図3)
- ・平成28年台風第10号では、道路被災に伴う全面通行止め(最長11日間)により、代替路がないため、通常に比べ距離・時間は約2倍の広域迂回が発生。(写真①、写真②、図4)



図4 災害時の広域迂回



図3 国道106号の状況と主な被災箇所



写真① 河川並行区間の被災状況(同一路線)



写真② 平成28年台風第10号での被災状況(当該区間)

②三次救急医療施設へのアクセス

- ・宮古地域には三次救急医療施設がないため、脳梗塞などの重篤患者は約100km離れた盛岡市の病院へ約2時間をかけて搬送しており、搬送時間短縮によるアクセス性の確保が課題。(図5、図6)

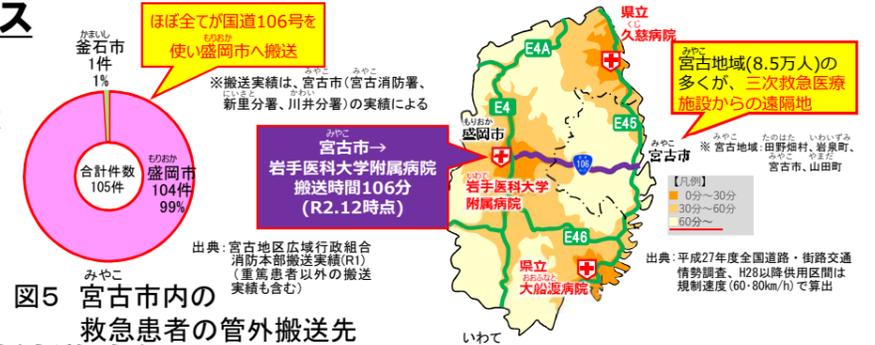


図5 宮古市内の救急患者の管外搬送先

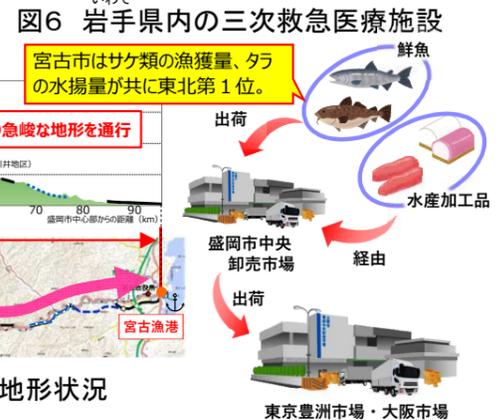


図8 水産物の主な出荷ルート

③水産加工品輸送に不可欠な幹線道路ネットワーク

- ・東北地域の「食」を担う水産業の輸送を支える国道106号は急峻な山地部を通るため、輸送時間の速達性・定時性の確保が課題。特に、サケ・タラの出荷のピークを迎える冬期が顕著。(図7、図8)

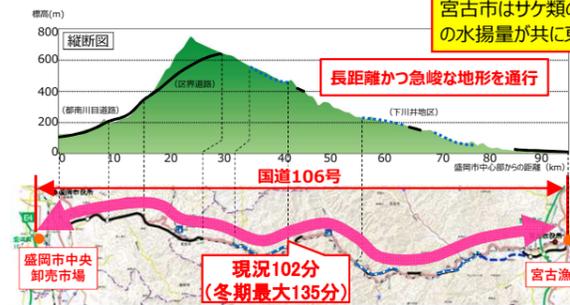


図7 宮古～盛岡間の距離と地形状況

3. 整備効果

効果1 信頼性の高い道路ネットワークの確保 [◎]

- ・災害時の交通障害や道路寸断等による広域迂回を解消

○宮古市役所～盛岡市役所間の広域迂回
【現況】213分 ⇒ 【整備後(迂回がなければ)】80分

効果2 救急医療活動を支援 [◎]

- ・宮古地域から盛岡市の三次救急医療施設への搬送時間を短縮

○宮古市役所～岩手医科大学附属病院の搬送時間
【現況】106分 ⇒ 【整備後】82分(約24分短縮)

効果3 水産業の生産性拡大を支援 [◎]

- ・内陸部と沿岸部を結ぶ道路ネットワークの強化

○宮古市魚市場から盛岡市中央卸売市場までの所要時間
【現況】102分 ⇒ 【整備後】78分(約24分短縮)

■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用※2	総便益※2
1.2 (0.8)	4.8 (2.8)	549億円 (330億円)	638億円 (260億円)

注) 上段の値は宮古盛岡横断道路(宮古～盛岡)を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果
※1: EIRR: 経済的内部収益率 ※2: 基準年(R2年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

■道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度(防災機能ランク)		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
10 (5)	1.00[D] (1.00[D])	0.91[C] (1.00[D])	▲164.3 (▲30.2)	0.18 (0.05)	0.10 (0.00)	◎

注) 上段の値は宮古盛岡横断道路(宮古～盛岡)を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果

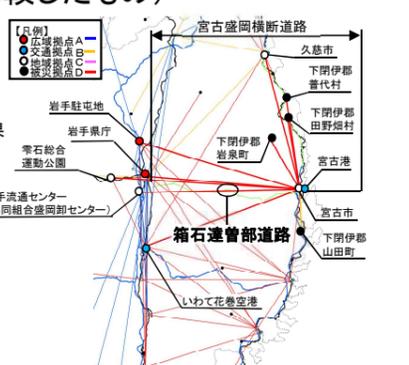
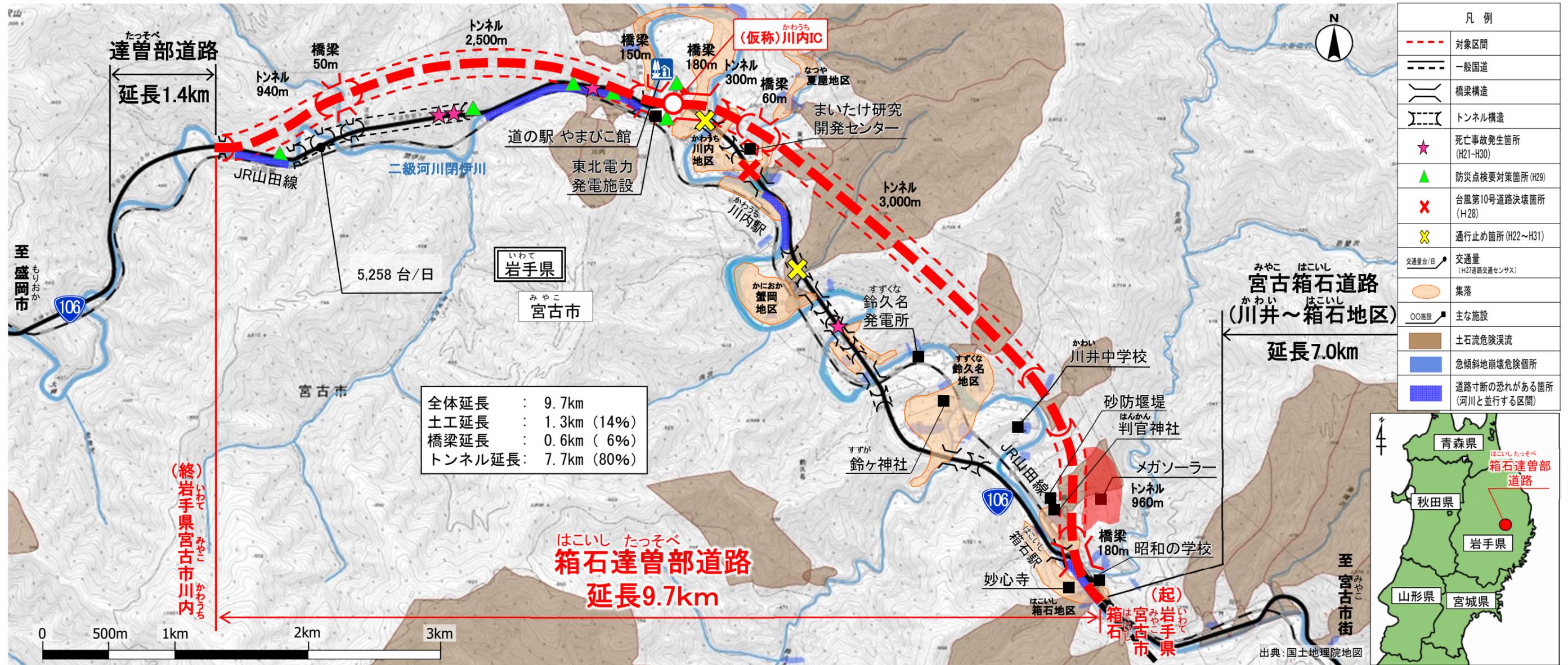
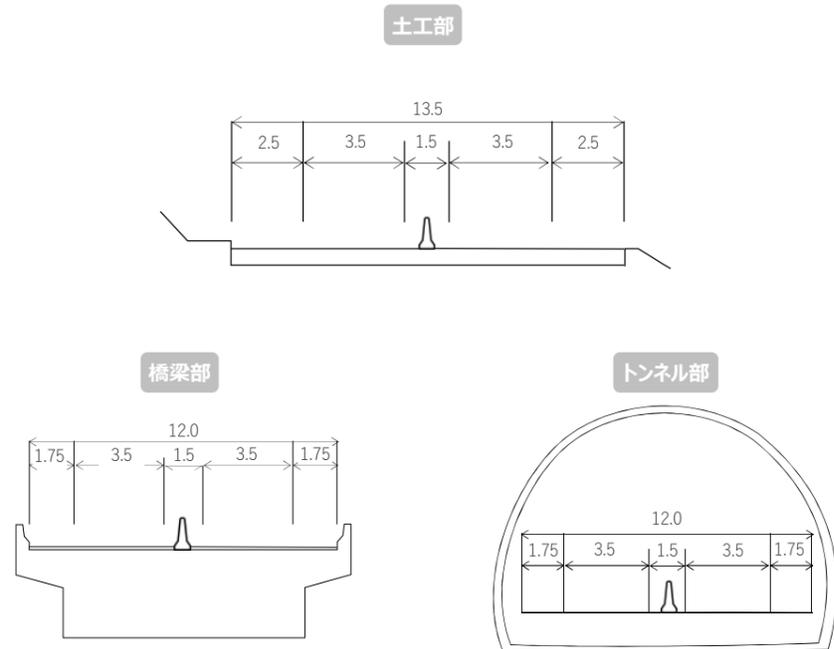


図9 整備後の防災機能ランク

一般国道106号(宮古盛岡横断道路)箱石達曽部道路に係る新規事業採択時評価



【標準横断図】(単位:m)



【縦断図】

